

福岡市保健福祉審議会高齢者保健福祉専門分科会 (平成30年度第1回) 議事録

1 日時

平成30年5月15日(火) 15:00~15:45

2 場所

TKPガーデンシティ天神 S-3会議室

3 出席者

別紙のとおり

4 議事

(1) 開会

(2) 議事

- ・分科会長及び副分科会長の互選について

(3) 報告

- ・老人福祉センターの今後の方向について

(4) 閉会

5 議事録

(1) 開会

【事務局】：<会議成立の報告><会議資料の確認><委員紹介>

(2) 議事

分科会長の互選について

【事務局】

分科会長及び副分科会長の選出については、福岡市保健福祉審議会条例第7条第4項の規定により、委員の互選によって定めることとなっている。推薦等あれば、お願いしたい。

特に意見等がないようであれば、事務局の方から提案させていただきたい。

(異議なし)

それでは、事務局から提案させていただく。

分科会長は平田委員に、副分科会長は伊藤委員にお願いしたい。承認いただける場合は拍手をお願いしたい。

(拍手多数)

それでは、平田委員、伊藤委員、引き受けていただけるか。

(平田委員、伊藤委員 了承)

それでは、分科会長は平田委員に、副分科会長は伊藤委員にお願いする。平田委員、伊藤委員は、前方の分科会長、副分科会長の席へ移動をお願いしたい。

(分科会長、副分科会長 座席移動)

【事務局】

それでは、これから先の議事は、平田分科会長にお願いしたい。

【分科会長】

それでは、報告事項「老人福祉センターの今後の方向について」、事務局から説明をお願いしたい。

【事務局】 <資料説明>

【分科会長】

事務局からの説明について、意見・質問等はあるか。

【委員】

「老人福祉センターの今後の方向について」の「機能強化・新たな機能付加」という記載の中で、「創業・就業支援による生きがいつくり機能」強化の点について質問させていただきたい。

まず、実態調査における高齢者ニーズ、行政に力を入れてほしい高齢者に関する施策、

という資料の中で、「地域活動やボランティア活動など、高齢者の社会貢献活動を支援する施策」の割合が12.4%で、センターでの実施状況は一部実施となっている。

現在、地域活動、ボランティア活動を実際している高齢者は、同じく高齢者実態調査の項目で、約10%程度となっていて、3年ごとの高齢者実態調査で、少しずつパーセンテージが低くなってきているのではないかとと思われる。

御承知のとおり、地域の実態としては、地域活動やボランティア活動の担い手不足であり、もっと多くの方にボランティア活動、地域活動に関心を持っていただきたいと考えている。市・区の社会福祉協議会では、ボランティアセンターで講座をしたり、公民館などによりなどでボランティアを募集したり、色々工夫をしているところだが、まだ担い手不足という実態がある。

そこで、これまで社会福祉協議会では老人福祉センターの利用者に対して、ほとんど働きかけをしてきていなかったのもう少し積極的に働きかけていきたい。

例えば、介護支援ボランティア、あるいは地域に根ざしたボランティア活動などについて情報提供をしたり、ニーズがあれば出前講座をするなど、連携をさせてもらいたい。

それが実現すると、生きがいつくりの拠点として、アラカンフェスタの各区版等々を実施することで、シニアライフ、ボランティア、地域カフェなどにつながっていく。実際の活動の現場で、活動の実践をしてもらうために、情報提供や地域との連携があると、うまく進むのではないかと思う。

【事務局】

ボランティアの情報を、いろんな場で活躍してもらうために老人福祉センターで提供することは高齢者の方に様々な社会参加の機会を提供する意味でも非常に有意義な事と思う。いろんな面で社会福祉協議会とも連携していけたらと思っている。

【分科会長】

ボランティアする人は、必要とされるということでまた生きがいが出てくるだろうし、また今、担い手が少ないということで、担い手をどんどん発掘していくということでも素晴らしいことだと思う。

【委員】

2点ほど意見がある。別紙概要の設置根拠によると、60歳以上の市民が、老人福祉法15条と福岡市の老人福祉センターの条例による「老人」と規定されている。これによると自分も「老人」に該当するが、全く老人とは思っていない。国でも老人の根拠を何歳にするかという議論があっているが、名称を「老人福祉センター」と言われると、何となく近寄りたく、行きたくないというイメージがあるので、資料にもあるように「より親しみやすく、幅広く利用される施設となるよう」に、また、自分が「老人」ということで、ここが拠り所になるわけではない、と、地域をリードするぐらいの気概をもってやっていけるような施設であるという名称の公募にしていきたい。

少なくとも、もう「老人」という言葉は取ってもらいたい。

2点目は、老人福祉センターといった老人のコミュニティを社会から隔離して、高齢者だけが寄り添っていく、ということではなく、大家族制度が崩壊した今、地域にとって若い世代の方々や、親と離れて暮らす人もいるわけで、そういう人たちに対して、高齢者が人生の経験者として、いろいろアドバイスできることもあると思う。そのため、老人福祉センターや介護の施設をできるだけ、中心部に近いところと言うか、極端な話、保育園や幼稚園と併設してもいいぐらいだと思っている。そういう人生の達人である高齢者が若い人たちにいろいろアドバイスできるという意味で、隔離したものではなくて、社会の中心にいるという、気持ちが持てるようなセンターや活動の内容にしてもらいたい。

【分科会長】

名称は確かにそういう意図で変えられると思うし、高齢者と子どもが接するような場所があればいいという話はよくあるが、何かそういうアイディアはあるか。

【事務局】

老人という名称については、まさしくそういう印象を持っているという人が非常に多いのでは、と思っているので、そのあたりも踏まえながら、愛称を考えていけたらと考えている。

また「老人のコミュニティを隔離することではなく」という意見があったが、老人福祉センターはセンターによっては、周辺の中学校や高校、大学との交流を行っているセンターもある。そういった事例もどんどん取り入れながら、開かれたものにしていけたらと思

っている。

【分科会長】

他に意見は。

【委員】

まとめてある今後の方向と、この二つの機能強化、「健康づくり機能」と「創業・就業支援による生きがいくくり機能」は大変重要な、大きな二つの柱だと思っているので、この方向性をぜひ進めていただきたい。

保健福祉局のマスタープランで掲げられている、「配る福祉から支える福祉」でいう、まさに「支える福祉」の担い手は、別に老人ではない人たちではなくて、元気なシニアの方々が、より高齢の方を体が健康なうちは、地域でサポートし合う、という形が実現できるととても素晴らしいことだと思う。その方向性に合致しているまとめ方になっていると思う。

そこで簡単な確認が2点ある。1つは名称のことが私も気になっていて、これは確認だが、現在の施設名、それぞれ7施設、「〇〇園」という形で名称が付いているが、この名称はもうやめるということなのか、あるいはこの名称は残して括弧書きか何かで、愛称を公募するようになるのか、それによって実は、すごく市民の受け止め方が変わってくるのではないかと思われる。

私個人的には、やはりこのタイミングで名称を変えるというのは非常に大きな前向きな意味だと捉えており、「リブランディング」、要はブランドを新しくするという点でもあるので、その点ぜひこういった新しい取組みを進めていくうえで、リブランディングが成功するような、そういう新しい名称として、刷新することができると、より効果が高まるのではないかと思う。その点、この古い施設名が残るのか、確認したい。

2点目は、資料の「健康づくり機能」について、かなり具体的な方策がいろいろと列挙されており、大変イメージがしやすいが、「創業・就業支援の生きがいくくり機能」で、アラカンフェスタとかR60 倶楽部という、具体的な名称が出ているが、その上のシニア起業や就業機会の提供というところについては、まだ具体的な記述までは落とし込めていないということが、この資料から見て取れる。

この内容については、今後、公募される指定管理者に、公募の段階、あるいは公募後に選定を行って決定をした後で、ある程度、指定管理者に委ねられることになるのか、ある

いはそこは福岡市として、これまで議論してきたことを、一定程度、指定管理者に担ってもらえるように、行政の意図に沿うような形で指定管理者とともに作っていく形なのか、その辺の実行のイメージが湧きにくかったので、以上2点を質問させていただく。

【事務局】

まず、名称については、これから公募等、具体的なことを検討していきたいと考えている。東香園、長生園等の名称については、現在の利用者には親しまれているという状況もあるため、それらも踏まえながらどのような形で行っていくか検討していきたい。

2点目、生きがいつくりの機能について、起業、創業について具体的な中身が見えづらいということで指摘があったが、こちらは、例えば、起業については、昨年度ちょっと試験的に、スタートアップカフェと連携して、実際にシニアで起業した人に老人福祉センターに来てもらい、セミナーを開催するなど行った。

このような取り組みを発展させて各園に展開していけたら、ということも考えている。

指定管理者が主になるのか、市が主となるのか、ということだが、市としてもさまざまな事業を展開していきたいと考えているし、また、せっかく指定管理者で事業を行っているということで、民間のいろんな提案をもらえると思うので、そのあたりも柔軟に取り入れつつ取り組んでいけたら、と考えている。

【委員】

この辺の取組みというのは、結構、試行錯誤やってみないと分からないということが多いと思うので、まさに柔軟な視点と方法論でもって試行錯誤してみて、明るい材料を見つけ出して、それを伸ばしていくというような形で進めていただけるといいのではと思う。

【委員】

1点お尋ねしたかったのは、別紙の概要に「無料または低額な料金」とあるが、基本的にはほぼ無料で活用してもらっていると思うが、施設の築年数などを見ると、もう40年超えたのが3つ、30年超えたのが3つということで、たまたま今日の新聞に北九州市が公共施設の料金を上げるというのが出ていたが、これから先、老朽化、耐震等も含めて、ゆくゆくは個人負担という方向性も考えられているのか、管理の仕方についてお尋ねしたい。

【事務局】

現在の老人福祉センターについては、基本的に教室等の一部実費負担等以外は無料としている。公の施設等における利用者負担のあり方は、今、北九州市の話もあったが、公平性の観点から一定の負担を求めるべきという意見があるということは承知している。

ただ、現在多くの利用者がある現状を踏まえて、慎重に検討していく必要があると認識している。他の政令市の動向や他の公の施設の状況なども勘案して、利用者の負担がどうあるべきか、ということを検討していきたい。

【委員】

耐震の整備は終わっているのか。

【事務局】

全施設耐震基準を満たしており問題ない。

【委員】

シルバー人材センターについては、職の拡大を行いたい、一方で「就労」ではなく、自分の社会貢献、生きがいということであまり収入が多くてもいけない、という部分もある。今回、「多様な就業機会」ということだが、シルバー人材センターが、どのくらい職の拡大など、委託を受けるようになるのか。

結果的に同じ中身だったら、多様な働き方に繋がっていかないと思うが。

【事務局】

シルバー人材センターについては、確かに職種が偏っているとか、紹介できる仕事は現業分野が多い印象があると聞いている。

実際に高齢者は、最近は特に事務職で雇用されたいという希望も多いと聞いている。そのあたり、シルバー人材センターとも連携しながら、できるだけ紹介できる職の確保に取り組んでいけるように、職の開拓等を考えている。

【分科会長】

私も開業医として患者さんを見ていて、やはりどちらかというと男性の高齢者が社会に

溶け込むのが下手で、退職してしまうと、肩書きがなくなってしまう、家にずっといる。そんな中で健康を害したり、友達がいないから鬱になる、その延長線上に認知症になる、というようなことがある。

女性の場合は、本当にたくましくて、いくつになっても友達をどんどん作って旅行に行ったりいろいろ楽しんだりされる。やはり今ここに書いてある、健康づくり、そして健康寿命を延伸していく、そして生きがい、特に男性に持ってもらい、ボランティアなど、できる人が、さらに高齢者を支えていけるような社会を作っていかなければいけないと思う。この表をみて、非常に大賛成であり、いろんな点でまだ発展させるような知恵が委員の皆さんにあるんじゃないかと思って、楽しみにしており、またこれを発展していかないとはいけないと思っている。

特に福岡の場合というのは、核家族で、高齢者の独居率が非常に高く、そのために長野県などに比べたら、健康寿命が非常に短くなっている。長野県はまだ大家族があって農業などで、高齢者が必要とされている、という生きがいがある。福岡の場合は、人工的ではないけれども、環境を作って、なんか必要とされているんだ、とか、心身が良い環境で生活できる面ができれば、幸せな生活が過ごせるのではないかと思うので、ぜひ進めていていただきたい。

他に無ければ、「老人福祉センターの今後の方向について」の質疑は以上で終了する。

【別紙】出席者一覧表

1 高齢者保健福祉専門分科会委員（※五十音順）

氏名	役職・専門分野等
阿部 正剛	福岡市議会第2委員会委員
池田 良子	福岡市議会第2委員会委員
伊藤 豪	福岡大学商学部准教授（保険論，社会保障論）
岩城 和代	弁護士
古賀 康彦	福岡市介護保険事業者協議会会長
高田 仁	九州大学大学院経済学研究院産業マネジメント専攻教授
平井 彰	一般社団法人九州経済連合会常務理事 事務局長
平田 泰彦	福岡市医師会副会長
吉村 展子	社会福祉法人福岡市社会福祉協議会常務理事

2 福岡市（※組織順）

氏名	所属
永渕 英洋	福岡市保健福祉局長
舟越 伸一	福岡市保健福祉局理事
中村 卓也	福岡市保健福祉局政策推進部長
竹森 活郎	福岡市保健福祉局政策推進部政策推進課長
木本 昌宏	福岡市保健福祉局政策推進部課長（健康先進都市推進担当）
大島 晶子	福岡市保健福祉局健康医療部長
入澤 由三子	福岡市保健福祉局健康医療部健康増進課長
高木 三郎	福岡市保健福祉局高齢社会部長
田久保 義隆	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢社会政策課長
中藪 泰浩	福岡市保健福祉局高齢社会部地域包括ケア推進課長
石橋 進次	福岡市保健福祉局高齢社会部介護保険課長
林 紀子	福岡市保健福祉局高齢社会部高齢福祉課長
笠井 浩一	福岡市保健福祉局高齢社会部認知症支援課長